

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
祛痰剂 治風化痰剂 6		
<p>ちおういんし 地黄飲子</p>	<p>滋腎陰・補腎陽・開竅化痰</p>	<p>熟地黄・巴戟天・山茱萸・石斛・肉苁蓉・炮附子・五味子・肉桂・茯苓・麦門冬・菖蒲・遠志各6g 生姜・大棗・薄荷を加えて水煎し服用する。 粉末にし1回9gを生姜・大棗・薄荷と水煎し服用してもよい。</p>
<p>宣明論</p>	<p><主治> 瘖痺 (いんぴ) 証 舌のこわばり、発語障害、腰や膝に力がない、歩行障害、口乾があるが水分を欲しない、舌苔は腐膩、脈は沈細弱で遅など。</p> <p><病機> 下元虚衰による虚陽上浮に伴って痰が上犯し、竅道を堵塞した状態である。 下元 (腎陰、腎陽) の虚衰で筋骨が痿軟無力になり、「痺 (ひ)」すなわち足廢不用になり、腰膝が無力で歩行が困難になる。腎陰陽虚衰で虚陽が上浮し、腎の気化不足により水湿が聚って生じた痰濁が虚陽と共に上犯し、竅道を堵塞し舌根を閉塞するので、「瘖 (いん)」すなわち失音が生じ、舌がこわばってしゃべることができない。虚陽上浮で口乾があるが、痰濁を伴うために水分は欲しない。痰濁上犯による膩苔はあるが、虚陽に伴って上犯しているだけであるから真苔ではなく、舌上に浮いて根のない腐苔を呈するのである。脈が沈細弱で遅は、陰陽共に不足していることを示す。</p> <p><方意> 温補下元を主体に、摂納浮陽、化痰開竅を補助とする。 滋補腎陰の熟地黄・山茱萸と温腎壯陽の肉苁蓉・巴戟天が主薬で、下元を温補する。辛熱の附子・肉桂は、真元の温陽を補助すると共に、引火帰原して浮陽を摂納する。滋陰斂液の麦門冬・石斛・五味子は、滋腎を補助する。菖蒲・遠志・茯苓は開竅化痰と交通心腎に働く。少量の薄荷は利咽に、大棗・生姜は和中に、補助薬として配合されている。全体で滋腎陰、補腎陽・開竅化痰の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方 (地黄飲子) は治瘖痺の主方である。</p> <p>加減法 腎陰虚に偏して熱感が強い場合は、温燥の附子・肉桂を減去し、桑枝・地骨皮・鼈甲等を加える。 腎陽虚に偏して冷えが強い場合は、淫羊藿・仙茅などを加える。 痰火が盛んで黄膩苔を呈するときは、肉桂・附子を除き、貝母・竹瀝・胆南星・天竺黄などを加える。 足廢不用の「痺」だけの場合には、宣通開竅の菖蒲・遠志・薄荷などは減去してもよい。 本方 (地黄飲子) は温で、不燥という特長をもつが、温補に偏っているので肝陽偏亢には用いない。</p>	